

日本女性会議 2015 倉敷 報告

白壁の町に 2,000 人集う



ひと
「思いやり 男女が集う 白壁のまち ～ライフステージとそれぞれの

男女共同参画～」をテーマに、平成 27 年 10 月 9 日、10 日に倉敷市民会館をメイン会場に、全国から約 2,000 人の参加のもとに盛大に開催されました。「さんかく 21・安城」からも 14 人が参加しました。

今、社会で何が起きているのか、国の目指す女性の活躍推進や取りまく課題など、多くの情報を得ることができました。この学びをもとに、自分のおかれている立場でものを言い、広げていけたらと思います。

「日本女性会議」とは

社会の変化に伴うさまざまな課題を、男女共同参画の視点で考える、参加者相互の交流や情報交換を目的とした全国規模の会議です。国際婦人年(1975 年)とそれに続く「国連婦人の 10 年」を記念して 1984 年(名古屋市)からスタートして、今年で第 32 回を数えています。

基調報告(内閣府より)

「女性が輝く社会を目指して」

～男女共同参画の現状と課題について～

- 我が国のジェンダーギャップ指数は、142 か国中 104 位です。(2015 年は 101 位)
 - 我が国の男性の家事や育児に費やす時間は、世界的に見ても、最低水準です。
 - 人口の減少により、女性の労働力を必要とします。そのためには、職場や家庭における女性が働きやすい環境づくりが大切です。
 - 「ウィメンミクス※」は「アベノミクス」の中核です。
- ※ウィメンミクス：女性の社会進出が経済を成長させるという考えのこと。

分科会

10 分科会(女性史、防災、子育て、コミュニケーション、ドメスティックバイオレンス、セクシャルマイノリティ、貧困、食育、居場所づくり、若者)がありました。

「さんかく 21・安城」の今年のテーマである防災について報告します。

自分が今住んでいる地域を、過去の災害や気候データなどを知ることにより、これから何が起こり得るか、そのとき、どうしたら良さを常にイメージしておくことが大切です。

また、自力で避難するための体力づくりや地域が一体となった活動の推進も必要です。

※裏面では、ドメスティックバイオレンスとセクシャルマイノリティの分科会報告を掲載しています

シンポジウム

3 人のシンポジストから、ライフステージとそれぞれの男女共同参画についての提言がありました。

- 「子連れ出勤」などの子連れワークスタイルや、見た目では授乳中とわからない授乳服の普及などを通じた社会と子育てをつなぐ環境づくり。
- ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ(多様性)は、企業の戦略として取り組むことが大切。
- 保育所の新設・定員拡大、学童保育受入の拡大など、子育てと仕事が両立できる環境実現を図ることが大切。